

## <編集後記>

初年次教育学会誌の第4巻第1号を無事に会員の皆様にお届けすることができました。本号が発行された2011年は、日本が未曾有の災害を受けた年として、多くの方の記憶に刻み込まれることと思います。東日本大震災をはじめとして、その後の余震や台風などによって、会員の皆様の中にも被害に遭われた方がいらっしゃるかと存じます。この場をお借りして、改めてお見舞い申し上げます。

実は、本号からは投稿論文の投稿締め切りを5月末日に設定していたのですが、こちらの不手際で会員の皆様にそのことを正確にお知らせすることができておらず、また前述の震災の影響があったことに鑑み、従来通りの6月末まで期限を延長いたしました。そのため、年末の発行に向けたその後の編集作業も「例年通りに」慌ただしいものとなってしまいました。投稿論文の査読期間も決して長いものではありませんでしたので、審査にご協力いただいた会員の方には申し訳なく思います。また、査読後に論文執筆者の皆様へ原稿の修正をお願いする際にも、やはり十分な期間を確保することが難しく、不自由をおかけいたしました。次号からは、規程通りに5月末日が投稿締め切りとなります。多くの会員の方からの投稿をお待ちしております。

本号に掲載するべく投稿された論文は、研究論文が4編、事例研究論文が5編でした。研究論文4編のうち2編は事例研究論文として種別を変更した上で本号に掲載されました。また、事例研究論文は5編のうち4編が採択されましたので、結果として本号には事例研究論文のみ6編が掲載されております。これは本号に限ったことではないのですが、掲載の可否について審査する中で、基本的な論文の書式がテンプレート（学会HPからダウンロード可能です）通りになっていない論文や、「研究」（事例「研究」も含まれます）としての最低限の条件を満たしていない論文を目にすることも少なくありません。そこで、2011年に久留米大学で開催された第4回大会において、編集委員会として「初年次教育学会誌への投稿論文の書き方」についての講習会を企画、実施いたしました。早朝からの時間帯であるにもかかわらず、多くの会員の方にご出席いただき、本誌への投稿についての、会員の皆様の関心が思っていた以上に高いという実感を持つことができました。機会があれば、今後も同様の趣旨の講習会を実施していきたいと考えております。同時に、講習会の内容を踏まえた、より水準の高い論文が、これまで以上に多く投稿されるようになることを期待せずにはおられません。

本号で初年次教育学会誌も4巻となりました。大学に入学したばかりの初年次生が卒業するまでの年月が経過していることとなります。まだ若い本誌も、巻・号を重ねるごとに成長を続けていくことになろうかと思えます。そのためにも、多くの会員の方からの論文の投稿が不可欠です。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

編集委員会を代表して 藤田哲也